

中国海軍ニュース：海南島への防空ミサイル配備強化

漢和防務評論 20151002 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

海南島は、南シナ海に面し戦略的に重要な位置を占めています。現在中国は海南島南部の三亚地区に空母用埠頭を2箇所建設しています。その他、最初の空母埠頭に隣接して核潜水艦基地があり、この地区の防空のため、最近新型の防空ミサイルに換装し施設の改修を行っています。中国海軍施設建設による海南島南部の三亚地区の変貌は急激です。南シナ海珊瑚礁の埋立による多数の軍事基地建設と合わせて考えると、中国はこの一帯を要塞化するつもりかもしれません。

しかし海南島の重要海軍基地は、トンキン湾（中国名、北部湾）を挟んで、ベトナムの海岸から280 kmしかなく、ベトナムの海岸に配備された対艦ミサイルの射程内にあります。

三亚周辺の防空ミサイル陣地の衛星写真（グーグルアース）を添付します。

KDR 香港特電：最新の衛星写真によると、海南島の第2核潜水艦基地及び第2空母基地周辺の地対空ミサイル陣地が新型の地対空ミサイルに換装されている。ミサイル陣地は、2014年から改修が開始されている。中国海軍が空母基地及び核潜水艦基地の防空を強化したことは予想通りであった。

三亚地区においては、第2空母基地周辺で少なくとも3個の防空ミサイル陣地が改修されている。これら陣地は、山上にあり、偽装隠蔽され、陣地の外形から見ると、空軍の地対空ミサイル陣地のように全く見えない。このことから、**KDR** はこれらの防空ミサイル部隊は南海艦隊海軍防空旅団に属していると見る。**KDR** が過去に説明したが、中国空軍の **HQ-9** 及び **S-300** 地対空ミサイル陣地を写真から識別することは比較的容易である。ウクライナ防空軍が建設した **S-300** 陣地とほぼ同じであり、その理由は、1990年代初期、中国空軍がウクライナから **S-300** の配備方法を学習したからである。**S-300** のデータ読み取り系統はウクライナ製であり、中国は経費節減のため、これら **S-300** の関連部品をウクライナから購入している。

KDR は、海南島の3個所の防空ミサイル陣地の外形から如何なる形式の地対空ミサイルが配備されたのかを推測した。可能性が最も高いのは、**HQ-9**、**HQ-6** 及び **LD-2000** 型弾砲結合システムである。これが正しいとすれば、**HQ-9** がすでに海軍防空旅団に装備されたことを意味する。

また海南島では、3個の信号モニター・ステーションが発見されている。総参謀部第3部はベトナムに対する信号情報盗聴に努力していると見られる。三亚周辺の防空ミサイル陣地は次の通り：

A 陣地 (A,B,C 陣地名は、本誌が独自に命名) :

第 2 空母基地から 12 時 30 分の方角にあり、第 2 空母基地棧橋から距離 2900 M (メートル)、第 2 核潜水艦基地の洞庫から 13.68 KM (キロメートル)、4 個の発射パッドがある。HQ-9 陣地は 4 個の発射パッドで構成され、背景色は赤土色である。陣地の位置は、海岸からの距離が 600 M で、第 2 空母基地、第 2 核潜水艦基地、第 32 潜水艦支隊基地に対して好位置にある。

山上陣地であり、平地に設置された HQ-9 陣地と異なるところは、前者は外形が特殊で非対称である。通常の状態 (平地) では S-300 及び HQ-9 の陣地は円形で、4 個の発射パッドが対称的に配置され、中心にレーダー車がある。

B 陣地 :

第 2 空母基地から 10 時 30 分の方角、第 2 空母基地棧橋から距離 3 KM、6 個の発射パッドがある。KDR は、LD-2000 弾砲結合系統であると判断する。海岸からの距離 190 M、第 2 核潜水艦基地洞庫から 16 KM、LD-2000 は主として巡航ミサイルに対処する。ベトナム海軍は、海岸配備型の YAKHONT 巡航ミサイルを配備している。射程は 290 KM で、中国海軍空母、核潜水艦基地を射程内におさめる。LD-2000 をこの位置に配置した理由は、巡航ミサイルが必ず通ってくる経路であると考えた可能性がある。このほか LD-2000 は、通常一個大隊に発射機が 6 個である。うち 3 個は機動用で、機動的な配備がなされる。他の 3 個は陣地を構築する。有効射程は 2500 M である。したがって一旦配備変更が必要になった場合でも、LD-2000 は、空母基地或いは核潜水艦基地から 2500 M 以内で機動するはずだ。2015 年 2 月の衛星写真では、第 2 核潜水艦基地洞庫の山上に掘削作業が見られた。何の陣地の建設であろうか？ 来年の衛星写真を期待したい。ミサイル陣地の可能性はある。或いはレーダー、通信電子ステーションの類か？

C 陣地 :

第 2 空母基地棧橋から 10 時の方角、距離 6.8 KM にある。B、C 陣地間の距離は 3 KM、第 2 核潜水艦基地から 19 KM、6 個の発射パッドがある。HQ-6 の 1 個大隊の発射機数は、6 個、射程 18 KM である。このミサイルは香港にも配備されている。

今のところ、中国空軍と海軍防空旅団の作戦部署は基本的に同じようである。すなわち HQ-9、HQ-6、LD-2000 で、高層—中層—低層目標に対する混合迎撃態勢を採る。そのうち低層は主として巡航ミサイルに対処する。HQ-9 と HQ-6 の間に形成される死角は、HQ-12 中距離地対空ミサイルで補う。海南島、香港、深圳の防空ミサイル配備方式は、これを証明している。

これらのことから、海南島の 2 つの大戦略基地、核潜水艦及び空母の周囲は、厳重な防空網が設置されていることが分かる。しかも主対称は、ベトナムである。

このほか、海南島の対潜ヘリの数が増加している。2014 年、海軍航空部隊ヘリ部隊の飛行場では新たな格納庫の建設が開始され、新たに円形屋根の格納庫が 1 棟完成した。さらに 2013 年の官方軍事報道に、南海艦隊”岸導団” (海岸ミサイル大隊)

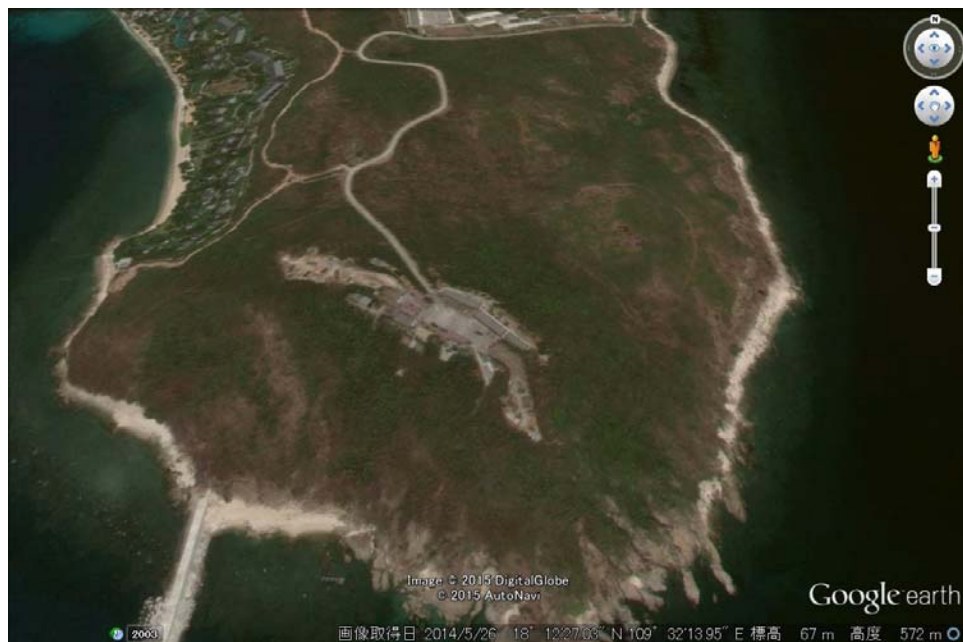
の YJ-62 (C-602) 対艦ミサイルの写真が掲載された。写真の背景は、低い山なみで草緑色であった。海南島南端三亜地区の山なみは低いので、YJ-62 がこの地域に配備されたのであろうか？三亜では大量の軍用宿舎が建設され、一部は装備検修所を有している。輸出型の C-602 は、射程 290 KM である。中国海軍が装備する YJ-62 はこの射程よりも長い。YJ-62 の配備陣地は、海拔 800 M 以下、海岸からの距離が 25 KM 以下であることが要求される。

このように見ると、海南島には、空母、核潜水艦、3 種類の新型地対空ミサイル、火砲防御系統、及び核弾頭が集中していることが分かる。また YJ-62 型海岸防御ミサイルが配備されている可能性があり、多くの対潜ヘリ、JH-7A、J-11BH 等の作戦機も駐屯している。また海軍の KJ-200 早期警戒機はすでに陵水飛行場に常駐している。今後、海南島全体が海軍の火薬庫になるであろう。

以上



三亜 SAM 陣地"A" (グーグルアース)



三重 SAM 陣地"B"（グーグルアース）



三重 SAM 陣地"C"（グーグルアース）